



おかやま環境ネットワーク

NO.67
2012.5

NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

環境講座 開催報告

第5回『持続的社会的条件を創りましょう』



白井浩子氏

1月14日に元岡山大学准教授・白井浩子氏を講師に開催し、14名が参加されました。

エコロジカル・フットプリントの削減へ向け、人類が持続する根本条件である[人間活動総量] < [生態系の能力] (40年前から人間活動は超過) としましよと呼びかけられました。

第6回

- ①『地球環境問題と日本の環境政策～持続可能な社会を目指した仕組みづくり～』
- ②『持続可能な社会づくり～自然との共生の観点から～』



左：最上祥成氏 右：柄本廣宣氏

2月18日に環境省中国四国地方環境事務所・柄本廣宣氏と最上祥成氏を講師に開催し、26名が参加されました。

柄本廣宣氏は、低炭素社会の構築に向けた取り組みや循環型社会

の構築に向けた取り組みについて解説され、地球上の資源や生産力の有限性を十分に認識して活動することが必要であり、持続可能な社会を築き、良好な環境を子ども達に引き継いでいくことは、我々現代の世代に課せられた使命であるとまとめられました。

最上祥成氏は、持続可能な社会実現の一翼を担う自然環境との共生について、生物多様性がもたらす恩恵や生物多様性の3つの危機+1、こういった危機にどう対応していくのかという観点から、自然保護関連の法制度の紹介がありました。生物多様性の価値の再認識が必要であるとまとめられました。

第7回『自然と人間の共生を図ること、持続可能な社会構築のために』

3月3日に岡山大学社会連携本部本部長・青山勲氏(おかやま環境ネットワーク理事長)を講師に開催し、15名が参加されました。

持続可能な社会づくりのため、「環境・人間・文化」の問題を考え、「自然と人間の共存のための環境倫理」についてみんなで議論しました。

第4回水環境フォーラム in 岡山 開催報告

今回は、『台風12号に伴う大出水の「旭川中下流域の生態系」への影響』をテーマに2月11日に開催し、36名が参加されました。



植田 彰氏

国土交通省岡山河川事務所所長・植田彰氏から「台風12号による大出水の特徴と被害(過去の大出水と比較して)」、岡山理科大学・北岡豪一氏から『大出水時における河川水位と水温の変動』、岡山理科大学・山口一裕氏から『大出水に伴う中下流域における水質と河床地形の変化』、岡山理科大学・齋藤達昭氏から『高島干潟を含む中下流域の魚類相に対する大出水の影響』、関西高等学校・吉鷹一郎氏から『中下流域の水生昆虫相に対する大出水の影響』について報告があり、その後、岡山大学大学院・河原長美氏の進行のもと、総合討論を行いました。

No.67の内容

- I. 環境講座・水環境フォーラム開催報告…………… P.1
- II. 寄稿『ESDの10年最終年会合の開催へ向けて』青山勲…………… P.2
- III. 寄稿『タンザニアにて』伊藤國彦…………… P.3
- IV. 『ネットワークのつどい』ご案内…………… P.4
- V. 体験プログラム①『ウミボタル夜間観察会』ご案内…………… P.5
- VI. 体験プログラム②『高島干潟いきもの観察会』ご案内…………… P.6
- VII. 体験プログラム③『みつばち農園エコツアー』ご案内…………… P.7
- VIII. 気になる数字、シンポ報告、ご案内等…………… P.8

青山 勳 「ESDの10年」最終年會合の 開催へ向けて



文部科学省は、昨年9月、2014年に岡山で「ESD最終年會合」を開催することを決定した。岡山は2005年名古屋で開催された「国連大学・ユネスコ国際會議」で、世界6カ国7地域がRCE (ESDに関する地域の拠点 Regional Centre of Expertise on ESD) として世界で最初に認定された地域の一つである。

つまり岡山のESD活動は国際的にも最先端を駆けていたと言うことである。今では認定されたRCEの数は世界で100近い数にまで増えている。岡山市では昨年「ESDの10年最終年會合を実現する会」を設置して、関係団体に呼びかけてきた。その結果岡山ではステークホルダー(関係者)會議が、愛知・名古屋においては閣僚級會議が開催されることが決定されたのである。そして先日、岡山市長を会長として「国連ESDの10年最終年會合岡山実行準備会」が設立された。私はその副会長の一人として

の役割を果たすことが命じられた。

「ESD (Education for Sustainable Development)」とは、既に広く知られるようになったが、「持続可能な発展のための教育」の略号で、環境、エネルギー、人口、貧困、ジェンダー、国際理解など現代社会が抱えている様々な問題を教育によって解決し、新たな価値観の創造や行動を呼び起こそうとする、国際的な、壮大な運動である。現代の私たちが享受している様々な恩恵を未来の人たちも同様に受けられるような社会を目指し、そうした社会を支える人づくりのための学習、教育、行動を起こそうとする一大文化運動であると言える。時代を遡るが、2002年、ヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳會議」で、我が国から「ESDの10年」が提案され、2005年に愛知で開催された「愛・地球博」をキックオフイベントとして、その年から2014年までを「国連・ESDの10年」とすることが国連総会で満場一致で決議され、その提案国である日本で標記の會議が開催されることになったのである。この會議には150カ国から閣僚クラスを含めて1500人以上の人が集まる大国際會議で

あり、地方自治体にとっては世界に名を知らしめる大イベントである。それ以上にESDの神髓が広く国民に知られることの意義が大きい。

昨年3月東日本は地震、津波、原発事故に伴う放射能汚染と未曾有の大災害を受けた。SD、持続可能な発展を根底から覆す大惨事である。このような災害をESDの観点からどのように考えるべきか、世代間を超える社会的公平性はどうすれば守られるのか、どうして守るべきなのか、地球を救い、人間社会を救い、そして人間自身を救う方法は、ESDとその実践だけではないが、そのツールとしては優れたものであり、一大文化運動として今や全世界に定着しつつある。2014年に開催される最終年會合は、10年間の成果を総括し、さらに次の時代のために新たな一歩を踏み出す道を指し示すものである。今、現代の私たちに課せられているのは、誇りを持って次世代に何を残すのかを論じ、そのために行動することである。ネットワークはそれを追い求めている団体であるといえよう。

青山 勳 氏

1942年生まれ
京都市出身
岡山大学社会連携本部・本部長
(財)おかやま環境ネットワーク
理事長

伊藤 國彦

タンザニアにて



昨年末タンザニアを訪問する機会をえました。関空から今話題のホルムズ海峡に隣接するドーハ(カタール)経由でタンザニア連合共和国首都ダルエスサラームまで18時間余、更に国内便にて80分程でキリマンジャロ空港に到着します。ここを起点にンゴロンゴロ自然保護区、セレンゲティ国立公園、オルドヴァイ渓谷、マニヤラ湖国立公園などで野生動物や昆虫などを観察しました。さらにマサイ部落やティンガティンガ村やマコンデ村で、個性的な生活と文化を垣間見ることができました。

動物では、アフリカを代表する大型野生動物(ライオン、ゾウ、キリン、サイ、シマウマ、ヌー、チータ、カバ、ヒョウ、インパラをはじめ多数の偶蹄類、ヒヒやサル仲間など)、多様な野鳥類と独特な昆虫類などの生態の一部が観察でき、映像と異なる野性の姿と迫りに圧倒されました。多くの動物は、保護区内で国を挙げてかなり厳しく保護されており、我々を含む観光客にも多くの制限も加えられています(サファリドライブ中降車厳禁、不用意な声や音などへの注意、全ての自然物の持ち出し禁止、滞在時間制限、宿泊場所の指定と敷地からの

外出禁止など)。しかし色々と問題があるようです。先日、新聞でも報道されていましたが、依然として密猟(主にサイとゾウ)が後を絶たず、昨年密漁された動物はここ5年間でも最大値を示しているようです。いまだに角などに薬理効果があるとの迷信を信じ高額で取引されるための迷信を信じ高額で取引されるためです。密猟法も巧妙になり、音の出ない武器を使って監視員の隙について行われているようです。



夕暮れのマサイキリン

ヌーやシマウマなどの移動性草食動物の大群を見ていると、野性は健全に見えましたが、幾種かの動物には絶滅の危機が続いているようです。

さらに原因不明の病気で死に至る動物も増えているようです。最近までは、死体も放置し自然の成り行きに任せていたようですが、伝染性の病原菌やウイルス感染などが警戒され、人の手でその場で焼却処分するようです。今回も、マニヤラ湖国立公園内で処分しきれず放置されたゾウの遺体の悪臭が広範囲に拡がっていました。

タンザニアには約15の部族の人々が生活していますが、多くは近代文明の影響を受け(PCや携帯の普及ぶりは驚く程です)都市部での生活への移行が支配的なようです。短時間ですが出会ったマサイ

部落の人々は、伝統的生活と価値観を大切に誇り高い姿勢を示してくれました。伝統的食生活と生活様式を守る。観光客などに媚びない、土産物を売りつけたりしない、勝手な写真撮影に応じない、子供を学校などに駆り立てないなどです。理由も説明してくれました。僅かな経験で短絡すべきとも、全てのマサイの人々がそうだとも思いませんが「何を大切にすべきか」という課題に多くの示唆を与えてくれました。

40歳で、警察に誤射されて亡くなったアフリカを代表する動物画家ティンガティンガを慕って集まった画家達の集団生活と活動の場所がティンガティンガ村です。ジミー大西さんも訪れ、若い日本人女性も活動していました。個性的な芸術文化が余り観光化しすぎなければ良いがなどと勝手に思いました。

独立時に活躍したというマコンデ族の村では、伝統的で個性的なマコンデ彫刻が生活の中心を成しているようでした。モチーフが「自然への敬意」と「人々の絆と連帯」だということです。

短時間の滞在でしたが、忘れられない経験になりました。悠々と流れる時間と大草原の中でもう一度自分と自然について考えてみようと思っています。



マサイ族の若者達

伊藤 國彦 氏

1945年生まれ
岡山県立大学名誉教授
絶滅危惧種ウスイロヒョウモンモドキを中心に県内昆虫相を調査している
日本鱗翅学会自然保護委員会
中国地区委員長
(財)おかやま環境ネットワーク
評議員



(財) おかやま環境ネットワーク

『ネットワークのつどい』ご案内

～ 県下の環境と環境に関わる活動について、語り、考えましょう！ ～

「活動仲間が増えたらいいな」「地域にどのような活動をしている方がいるのか知りたい」「どうやって仲間作り、資金集めをするのか」「団体の活動を紹介したい」等々、気楽な雰囲気の中で自身の活動や興味関心事について語らう『つどい』を開催します。

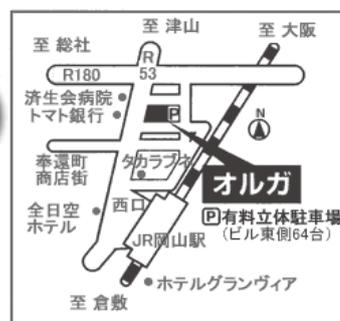
一般の方、活動をすすめている方、有識者や様々な団体、取り組みなどと“出会い”“つながり”“ネットワーク”をひろげましょう！

参加者募集

皆様どうぞお気軽にご参加ください！！

- ◆日時：6月30日(土) 13時～16時
- ◆会場：オルガホール(岡山市北区奉還町1-7-7)
- ◆定員：100名
- ◆参加費：無料 ※資料の準備の都合上、要申込
- ◆申込：6月22日(金)までに下記「参加申込書」で、
または「参加申込書」の内容をご連絡ください。
- ◆スケジュール(予定) 12:30～受付
 - ・13:00～ 開会挨拶
 - ・13:05～ 助成団体・調査研究活動報告(3団体予定)
 - ・14:00～ おかやま環境ネットワーク理事会報告
 - ・14:15～ 休憩、会場設営
 - ・14:30～ 交流会(グループディスカッション)
グループを①自然環境、②社会環境、③啓発活動に分け、お茶を飲みながら気楽な雰囲気の中で、ディスカッションします。進行は、おかやま環境ネットワークの役員が担います。
 - ・16:00 終了

団体、個人を問わず、
どなたでも
参加できます！



◆お申込・お問合せは
 (財) おかやま環境ネットワーク
 〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7-7 (オルガ)
 Tel・Fax: 086-256-2565
 E-mail: kankyounet@okayama.coop
 ※お預かりした個人情報、本事業以外には使用いたしません。

切り取り線

ネットワークのつどい 参加申込書

ふりがな 氏名		電話 番号	
住所	(〒 -)		
団体名	※個人の方は記入不要です		
ふりがな 氏名		ふりがな 氏名	
ふりがな 氏名		ふりがな 氏名	



海辺の生き物観察

『ウミボタル夜間観察会』

～ 青く神秘的な色で発光するウミボタルきれいな海辺環境を示す生物の一つです ～

自然にふれ、楽しみながら環境のことを考えるきっかけをつくることを目的に開催します。
いきもののいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、自然の役割や海の現状など、くらしと自然環境の密接な関わりを理解しましょう！
奮ってご参加ください！！

参加者募集 ※下記要項は予定です

お申し込んだ方には、別途詳細案内を郵送します。

- ◆日 時：7月15日(日) 18時～21時30分
- ◆行 先：倉敷市大浜海岸(鷺羽山下電ホテル前)
- ◆内 容：ウミボタルなど夜の海辺生物観察
- ◆講 師：吉鷹一郎氏(関西高校教諭)
- ◆定 員：40名
※応募者多数の場合は抽選、参加の可否は郵送にてご連絡します(当選者には詳細案内を郵送します)
- ◆申 込：6月29日(金)までに下記参加申込書を郵送、ファックス、Eメールのいずれかでお申込ください。
- ◆応募資格：小学3年生以上の方、未成年者は保護者同伴、大人のみ参加可
- ◆参加費：1人500円(年齢関係無)
- ◆主 催：(財)おかやま環境ネットワーク、生活協同組合おかやまコープ、岡山県消費者団体連絡協議会、岡山県生活協同組合連合会



◆スケジュール予定

- ※交通事情等により時間は前後する場合がありますので、予めご了承ください。
- ・17:45～ オルガ前受付
※岡山駅西口から北へ徒歩約5分
 - ・18:00 オルガ出発
 - ・19:00～ 現地観察会
 - ・20:30 現地出発
 - ・21:30 オルガ着(予定)・解散

- ◆持ち物：ライト(懐中電気)、磯歩きできる靴、持っている人はルーペ(虫めがね)

◆お申込・お問合せは (財) おかやま環境ネットワーク 〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7-7 (オルガ)
Tel・Fax: 086-256-2565 E-mail: kankyounet@okayama.coop
※お預かりした個人情報は、本事業以外には使用いたしません。

切り取り線

『ウミボタル夜間観察会』 参加申込書

代 表 者	フリガナ 氏名	年 齢	歳	電 話 番 号	
	住 所	(〒 -)			
	フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢 歳
	フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢 歳

2012 年度第 2 回体験プログラム

『高島干潟 いきもの観察会』

～干潟の役割とその大切さを実感しよう！～

新岡山港のすぐ南にある高島は、豊かな児島湾のシンボルとして古くから市民に親しまれてきましたが、その高島の東側には、潮が引くと広大な干潟が出現します。

干潟に棲むいきものたちが、汚れた水を浄化する作用を担っています。干潟を失うことは、必然的に、その浄化作用を失うことを意味します。この海辺教室では、実際に干潟の中に入り、そこに棲むいきものたちと触れ合うことで、五感を通して豊かな「多様性」を感じるとともに、自然環境について考え、姿を消しつつある「干潟の役割」や「水の中の命のつながり」について考えます！

夏休みを利用して、この高島の干潟でいきもの観察をしませんか。一見何もないように見える干潟ですが、実はいきものがいっぱいです。干潟に触られるチャンスです。ぜひご参加ください！

◆開催要項 (予定) ※参加者には、別途詳しい案内、集合場所の地図を郵送します。

①. 日 程：7月29日(日)

- ・ 8:30 四蟠港集合(新岡山港南東)
- ・ 9:00 海辺教室
- ・ 12:30 四蟠港解散

※雨天決行、警報発令時のみ中止します。

②. 場 所：児島湾高島干潟(新岡山港すぐ南の小島) 集合場所：四蟠港集合(駐車スペース有)

③. 内 容：干潟の生きもの観察

④. 講 師：斉藤達昭氏(岡山理科大学理学部准教授)、吉鷹一郎氏(関西高校教諭)

⑤. 対 象：小学3年生以上の方、小中学生は保護者同伴、大人のみの参加は可

⑥. 定 員：40名(応募者多数の場合は抽選。参加の可否は、郵送にてご連絡します)

⑦. 参加費：無料

⑧. 持ち物・服装：飲み物、タオル、長袖・長ズボン、帽子、汚れてもよい靴、靴下、履き替え用の靴

⑨. 申 込：7月6日(金)までに(財)おかやま環境ネットワークへ

⑩. 主 催：旭川源流大学実行委員会、(財)おかやま環境ネットワーク

協 力：岡山理科大学環境教育地域支援研究会、岡山野生生物調査会 後援：損保ジャパン



◆お申込・お問合せは

(財)おかやま環境ネットワーク 〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7-7

Tel・Fax: 086-256-2565 E-mail: kankyounet@okayama.coop

※お預かりした個人情報、本事業以外には使用いたしません。

切り取り線

『高島干潟 いきもの観察会』 参加申込書

代 表 者	フリガナ 氏名	年 齢	歳	電話 番号			
	住所	(〒 -)					
フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳		
フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳		

2012 年度第 3 回体験プログラム (岡山県環境学習エコツアー事業)

『みつばち農園エコツアー』

山田養蜂場みつばち農園にて、ミツバチの役割、自然と共生する姿を、楽しみながら学習します。
実際にはなかなか目にする機会の少ない、ミツバチの不思議な生態を観察し、命や自然の大切さを学びます。

①. 日 程：8月28日(火) ※予定です。参加者には、別途詳しい案内を郵送します。

- ・ 8:00 ~ コープ築港受付
- ・ 8:15 コープ築港出発
- ・ 8:50 ~ オルガ受付
- ・ 9:00 オルガ出発
- ・ 11:00 ~ 山田養蜂場 はちみつ工場見学と養蜂体験
※昼食は各自持参
- ・ 15:00 山田養蜂場出発
- ・ 17:00 オルガ到着予定
- ・ 17:45 コープ築港到着予定



※雨天決行、警報発令時のみ中止します。

②. 参加費：1人2,000円(工場見学代、養蜂体験代実費、年齢関係無) ※昼食は各自持参

③. 定 員：40名(小学2年生以上の方、小中学生は保護者同伴、大人のみの参加は可)

応募者多数の場合は抽選。参加の可否は、郵送にてご連絡いたします。

当選者には詳しいご案内と参加費振込用紙を郵送しますので、指定期日までに参加費を振り込んでください。

④. 申 込：8月10日(金)までに(財)おかやま環境ネットワークへ

⑤. 主 催：(財)おかやま環境ネットワーク、生活協同組合おかやまコープ岡山東エリア



◆お申込・お問合せは

(財) おかやま環境ネットワーク 〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7-7

Tel・Fax: 086-256-2565 E-mail: kankyounet@okayama.coop

※お預かりした個人情報、本事業以外には使用いたしません。

切り取り線

『みつばち農園エコツアー』 参加申込書

代 表 者	フリガナ 氏名	年 齢	歳	電話 番号				
	住所	(〒 -)						
集 合 場 所	※『O』をしてください コープ築港 ・ オルガ							
フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳
フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳

くらしの中の 気になる数字

『食品をわざわざ輸入してまで食べ残す日本。これって、何かへんじゃない?』

日本の食料自給率は、2007年度の推計でわずか40%でしかありません。2005年度に日本の家庭から捨てられた食品ごみの量は、約1100万トン(さらに事業者等からの廃棄分を合わせると、約1900万トンにも!)

これに対して、国内および海外から調達している農林水産物の量は、年間で約900万トンにのぼります。

わざわざ輸入してきていながら、それと同等以上の食料を大量に捨てているのが日本という国の実情です。

一方で農家が苦勞して作物を育てたり、漁師が一生懸命魚介類をとっている、その一方でそれに見合う分の食料を捨てているという生活を、今の私たち日本人は送っているわけです。

こんな生活を送っていて、それで本当にいいんでしょうか?

(EIC ネット・エコナビより)

維持会員総会資料発行 (同封)のお知らせ

2011年度の事業報告・決算と2012年度事業計画・予算等を掲載した維持会員総会(本紙P.4掲載)の資料を会員の皆様に1部同封しておりますので、ご覧ください(6月30日開催のネットワークのつどいに参加される方はご持参いただきますよう、お願いいたします)。

団体・企業会員の皆様へ

おかやま環境ネットワークニュースを複数(上限5部)必要な場合、ご連絡ください。次回よりお届けいたします。

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ!

第三回おかやま環境 シンポジウム開催報告

おかやま環境シンポジウムは、岡山県内の環境活動のネットワークを促進させるため、特定のテーマを設定し、関係者に集まってもらい、情報交換や交流を行うことを目的に開催しています。

第三回は、1月28日に開催し50名が参加され、「山と海をつなぐ川の役割」について、関係する団体、事業者、研究者、行政、市民が集まり、各地の情報交換、交流をすすめる、その再生について考えました。



定数を越える多くの参加がありました

当日は、NPO法人長良・自然とくらし楽校代表・市原広生さんから『豊かな自然を取り戻そう』と題し、講演いただきました。その後、岡山の自然を守る会理事・友延栄一さんから『岡山の川について一緒に考えましょう』、岡山県水産研究所・高木秀蔵さんから『川と海とのつながり～河川からの栄養塩～』、ランデス株式会社代表取締役社長・大月隆行さんから『共生の川づくりへー企業としての取組み事例』を報告いただき、参加者との意見交換をすすめました。



ランデス株式会社・大月隆行さん

メールニュース会員 募集中

おかやま環境ネットワークの情報や、会員団体のイベント情報等を掲載しています。配信希望の方はメールにて、件名:『メールニュース配信希望』とし、メールアドレス・お名前(必須)、所属団体・会社名(任意)を送信してください。

現在約750名にご登録いただいています。

ホタル団体交流会の ご案内

ホタルの保護、復活、再生をめざす人々にお集まりいただき、年3回ホタル団体交流会を開催し、取り組みの交流をすすめています。

どなたでも参加できます(無料)。ホタルに関する交流をすすめる、ネットワークをひろげましょう。

- ① 日時: 7月14日(土)
10:00 ~ 12:00
- ② 場所: オルガ5階会議室
- ③ 内容: 取り組み交流等
- ④ 申込: 必ず事前にお名前・連絡先をご連絡ください。

.....

会員の皆様には、2012年度会費の振込用紙を同封しておりますので、お振り込みください。またようお願いいたします(入れ違いでお振り込みいただいておりますらご容赦ください。既にお振り込みいただいております会員の皆様には同封しておりません)。

会費は、企業・協同組合: 1口2万円、団体・NPO法人・個人: 1口2千円、1口以上をお願いいたします。

.....

■お問い合わせは
(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026
岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail: kankyounet@okayama.coop
HP: http://www.okayama.coop/kankyounet/